



＜今月の1枚＞

ママさんリフレッシュセミナー ～気軽にトレーニング講座～

とことん一緒にやってみる

「先生というより地域の大人として、子どもたちと一緒に見守ってほしいんです」

小学校教諭時代、教え子のお母さんから、ある団体への誘いを受けました。そこはとにかくアナログに、集う人たち同士の直の関わりを大切にしている集まりです。子どもたちの役に少しでも立てるなら……という思いで参加することにしました。良く晴れた9月のある日の公園で、その団体の秋祭りが開かれました。小中学生が仲間や大人と相談しながら、手間ひまをかけて準備してきたものです。張り切って店番をしたり、売り歩きをしたりする教え子。普段のどこか遠慮がちな様子とは別人に見えました。傍では私を交え、飽きもせず遊びに興じる子どもたち。さらには年下の仲間を優しく導こうとする、中学生になった教え子たち。学校の授業や休み時間と比べ、とてもゆったりと流れる時間の中で、子どもたちは心ゆくまで活動にのめり込んでいました。私はそれまで、子どもたちのごく限られた一面しか見ていなかったことに気付き、とても驚きました。

人との関わりには、楽しさと共に膨大な手間と、もどかしさが伴います。一緒に暮らす家族がいれば、一人で気の向くままに過ごす時間は限られます。仕事は誰かに任せるより、自分で片付けた方が早く効率的な場合がよくあります。実際、生活科の学習として、家でお手伝いをする宿題を出した時には「後片付けが大変だから嫌!」と、保護者さんから苦笑されたことも。

しかし、あえて周りの人と一緒にやってみると、時間はかかりますが、アイデアが驚くほど広がり、一人では到底できないような面白い企画が生まれることがあります。あの秋祭りの時のように、相手の意外な一面が見えることもあります。何より一緒に活動する中で、互いの知見から学び合い、成長することができます。

たまには効率を二の次にして、納得のいくまでとことん一緒にやってみる経験は、優しくたくましい心を育む大きな力となります。「放課GO!GO!」を始めとした事業で、限られた時間の中ですが、そんな経験のできる場づくりを目指しています。また、本市の社会教育委員の会議では、いつも前向きな議論が長時間にわたって繰り広げられた上で、今後の活動の方向性が決まります。私はそこに希望を感じています。

(社会教育主事 斎藤 佳太)